

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念、サービス提供指針を寮母室に掲示し共有している。	「あなたもよかった・・」のサービス指針、理念等を職員すべてが共有しています。日頃のケアでは利用者のゴミ出し、歩行等を補助して「自立の芽」を見逃さずに「出来る事」からの出発に留意しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	定期的に運営推進会議を開催し民生委員や自治会役員、外部施設の職員を交え活動報告を行っている。 また、包括支援センター主催する認知症カフェに参加している。	利用者と共に、盆踊りの準備をしたり参加をしたり、また、消防訓練にも参加して地元町会の企画に出席しています。包括支援センターが主催する認知症カフェにも参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページのブログにて施設の活動報告している。他の施設で開催されている運営推進会議に参加し宣伝活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の活動報告以外に地域や施設での課題等を取り上げて協議を行いサービス向上に繋げている。	会議は定期的に行われ、民生委員、自治会役員、他施設の職員が出席しています。事業所からの報告の他台風等の災害時の避難状況やインフルエンザ発生時の対応などを話し合い、サービス向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政窓口への手続きの他、市の研修などに参加。運営推進会議やGH協議会などに参加した際に交流会や意見交換を行っている。	市の主催する研修に参加しています。運営推進会議や1, 2か月に1回程度市内のGH協議会に出席し他の施設との交流会や意見交換をしています。市町村の担当者とは手続関係について連絡をとっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内全体で身体拘束を行わない理念を掲げている他、社内研修等で得た知識を実践に取り組んでいます。防犯上の観点から玄関の施錠を行っている。	身体拘束はしないという理念を全体で認識し、年1回の研修を実施しています。それを踏まえ、利用者の認知症状に応じ個々のケアでどう活かすか、会議等で話し合っています。防犯上、玄関は施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から高い意識を持ち、強い口調や言葉による抑制にも十分気をつけている。新任スタッフへは入社時のオリエンテーションにて研修を行い法人全体で虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で制度の新たな知識を理解するように努めている。必要に応じてご家族様の相談や情報の提供等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を用いて丁寧に説明する事を心掛け、ご本人様やご家族様からの質問にも時間をかけ納得されるまで説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや、運営推進会議の開催。施設行事へ参加して頂いた際や面会にいらした際などは率先して意見や感想の徴収をおこなっている。	運営推進会議や施設の各種行事に参加した際、又は日頃の面会で来所の際などに積極的に意見や感想を伺うようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	モラルサーベの実施や定期的にスタッフ会議を行い意見や提案等を報告し改善に努めている。提案箱の設置し運営や業務に関する事をスタッフから募っている。	職員の意識調査(モラルサーベ)を実施し、スタッフ会議を定期的にかけて意見や提案等を聞いています。その結果、故障(破損)状況などスピーディに報告がされています。提案箱を設置し意見収集をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価がありスタッフの目標設定をする事でやりがいや向上心を持続するようにしている。また、希望休を取得しやすい環境作りにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが希望する外部研修への参加を促しスキルアップを行っている。また、研修に参加したスタッフが研修の発表をしてスタッフにレクチャーしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入し参加者との交流を深めネットワークを広げている。また運営推進会議に参加し関わりを積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時にご本人の要望や不安点等をしっかりお聞きしスタッフへ共有している。入居後もコミュニケーションを多く設け信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時にご家族の要望や不安点等をしっかりお聞きしスタッフへ共有している。入居後はご本人の様子を連絡したり緊急時は即座の連絡をおこない面会時には生活の様子を詳しく報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや見学の際にはグループホームの説明だけでなく、ご本人やご家族が必要としているサービスを適切に説明しケアマネジャーへの連絡を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見や要望を尊重し、自立支援を念頭に置きご本人が役割を持って安心した生活を送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内行事や外出行事にはご家族様もお誘いし参加して頂き、定期的に入居様との関わりを持って頂いている。希望があれば往診時には一緒に対会って頂き、医療的な支援について話をきいてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元出身者が多い為、馴染みの場所やお店に出掛けている。町会の行事や、認知症カフェへの参加も積極的におこなっている。併設のデイに友人が利用時には一緒に交流を持つ時間を設けている。	町会の行事や認知症カフェへも積極的に参加しています。地元出身の利用者が多い為馴染みの場所や店に出かけています。利用者の友人が併設のデイを利用する際には交流する時間を設けるなど支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のご利用者様に合わせフロアの座席や居室等を選定を行っている。イベントやレクを行う際は全員が参加し関わり合い持てる様に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も要望に応じて相談やサービス紹介等を行い支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族、ご本人からの情報収集を行い、ご家族の希望・ご本人の思い沿ったケアに努めている。	入居時の本人や家族の話からは、「住み慣れた環境」を維持したいとの思いが多く聞かれます。入居に際し、持参物の制限をすることなく、かつて暮らしていた雰囲気維持出来るよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族、ご本人からの情報収集によりアセスメントを行っている。日常会話の出来事等を共有し居室担当が中心となり検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々のアセスメントに基づき、個々の生活サイクルや有する能力を把握してケアに努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録を使用し職員間での情報共有、情報収集等を行っている。ご家族や担当医、看護師等にカンファレンスに参加して頂き、意見等を反映して介護計画を作成している。	介護計画の作成には、ケース記録を利用し職員間の情報収集をしています。また、カンファレンスには、担当医、看護師、家族等も参加し、意見を出し合い、それを反映した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や日報、温度版等の用いて職員間での情報共有に努めている。また必要に応じて介護計画の変更も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の要望、買い物や外出等のニーズに合わせたサービスを支援している。併設のデイサービスと連携し、スペースや機材、車両等の多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の夏祭りや消防訓練に参加し地域の交流を図っている。近隣のスーパーに買い物や散歩して生活を楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や訪問医の紹介は行うが、ご家族・ご本人の意向を優先して決めている。	利用者は月2回訪問診療を受けています。今回はオンライン往診を受けました。看護師は週1回、歯科は月2回訪問しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護の他、ご利用者様の体調に合わせ、随時電話での相談を受け付けおり、必要に応じて訪問対応をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを作成し提出している。 その他、職員の定期的な面会や担当医、担当看護師に状態を伺い、受け入れ体制の準備をして早期に退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についての意向を伺い、状態の変化に伴う医師からの説明、意思確認を行う。方向性を確認した後、関連職と連携を図り、ご本人とご家族に配慮したトータルケアを実施、看取りが主流となっている。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」について家族に説明し、家族の意向を把握して同意を得ています。重度化した場合や終末期には再度確認し、家族、医師、医療関係職と連携を図り、看取り介護をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練や社内研修で初期対応を学び実践に繋げている。またマニュアルも作成し各職員が共有出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。通報訓練や初期消火、避難訓練等も行い災害対策を共有している。自治会の防災訓練にも参加して協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実施しています。自治会の防災訓練に参加し、協力体制を築いています。事業所を避難場所の一つとしての利用を自治会に提案しています。	事業所の職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人々や他の事業所の協力が得られるように、更に取り組みを続けられることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに対するマニュアルを設置し研修を実施している。ゆとりのある業務内容にしてご利用者の声を大切にするように努めている。	職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して対応しています。職員は個別対応の日に利用者の好きな事や趣味、外出などを一緒に行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個々のご利用者が行きたい場所や町内会の行事等を自己選択できるよう支援している。おやつの中では食べたい物を決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールボードを活用してご利用者の一日のスケジュールを決めて頂き、生活スタイルに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類等はなるべくご利用者様に選んで頂き、個々のオシャレを楽しんでもらうように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳はセルフサービスを実施している。食事の片付け等もご利用者が助け合いながら行っている。	職員は利用者の好みを聞き、献立を考えています。屋上の家庭菜園で収穫した野菜も食卓に出され、おやつ作りは利用者も参加して作っています。配膳、下膳は利用者の各々の能力に応じて行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	電子記録にて食事量・水分量が表示され把握して共有を行っている。また、食事量・水分量の低下に応じて主治医に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。歯科往診では先生より、口腔内の状態や咀嚼の状態を説明して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に合わせて定期誘導を行っている。 夜間はオムツを使用しているご利用者様もいるが、日中はリハビリパンツを着用しトイレでの排泄して頂けるよう対応している。	利用者の排泄のパターンを把握し、一人ひとりの状態に応じてトイレ誘導を行っています。 夜オムツの人も、日中はリハビリパンツで過ごせるように対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症状が続いている場合は主治医の助言を受け薬によるコントロールを行っている。 日々の生活で体操やマッサージを実施し便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、個々の希望される時間帯に入浴を実施したが、状態の変化に伴い現在は日中のみの入浴対応となっている。	入浴は週2～3回、利用者の重度化に伴い日中帯になっています。車いすの利用者は併設しているデイサービスでの特殊浴設備も活用し、状態に合わせて入浴支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせて、安心してつるげ環境を整えている。夜間、無理強いな就寝にならないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、服薬担当が決まっている。 服薬指示書、服薬説明書は各職員が閲覧できる様にしている。薬の変更は申し送りにて共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し個々に役割や能力を発揮できる様に支援を行っている。レクや散歩等の個別ケアも支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添えるように、月一度外出行事を行っている。日々の生活の中で散歩や買い物をして、開放的な支援を実施している。	日々の生活の中で散歩や買い物に行ったり、屋上での外気浴も行っています。自治会の夏祭り、包括支援センターの認知症カフェにも参加しています。月に1度外出行事を行い、戸外に出かけられるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の財布はお預かりし管理しているが、外出や買い物や外出の際に金銭を自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて手紙の代読や代筆を支援を行っている。年賀状や暑中見舞いの作成もアクティビティの一環として行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾や馴染みの音楽、照明、木目調の建具、空調管理等により心地良い空間を創り出している。徹底された掃除や環境整備により、清潔感のある住居となっている。	利用者が多くの時間を過ごすリビングは、整理整頓がなされ、利用者がクラブ活動で作った作品が壁に飾られています。テーブルには生け花が飾られ、居心地良く過ごせるような工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルを囲んで食事や会話をして安心してくつろげる、居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や愛着のある物は持参してもらい極力、ご本人の自宅環境に近づける配慮を行っている。	利用者は自宅で使用していた家具や愛着のあるものを持参して、本人が自分の部屋だと安心して過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間に置いてバリアフリーとなっており、安全に生活が送れるよう手すりやクッションフロア材などを設置している。死角が少なく、見通しの良い環境となっている。		